# 二〇二三年度　入学試験問題

## 文学部A方式I日程・経営学部A方式I日程・人間環境学部A方式・GIS（グローバル教養学部）A方式

## 二限　国　語（60分）

〈注意事項〉

一　試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないこと。

二　解答はすべて解答用紙に記入しなさい。

三　志望学部・学科によって解答する問題が決まっている。問題に指示されている通りに解答すること。指定されていない問題を解答した場合、採点の対象としないので注意すること。

四　マークシート解答方法については下記の注意事項を読みなさい。

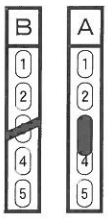
**マークシート解答方法についての注意**

マークシート解答では、鉛筆でマークしたものを機械が直接読みとって採点する。したがって、解答はHBの黒鉛筆でマークすること（万年筆、ボールペン、シャープペンシルなどは使用しないこと）。

一　記入例　解答を3にマークする場合。

(一)　正しいマークの例

(二)　悪いマークの例




枠外にはみださないこと。

○でかこまないこと。

二　解答を訂正する場合は、消しゴムでよく消してから、あらためてマークすること。

三　解答用紙をよごしたり、折りまげたりしないこと。

四　問題に指定された数よりも多くマークしないこと。

〔一〕 つぎの各問いに答えよ。

問一 つぎの各文のカタカナを漢字に直して解答欄に記せ。

1 敵のキセンを制して攻勢に出た。

2 若年性ケンボウ症に悩まされる。

3 議論の末、オントウな結論に至った。

4 シンシュの気性に富んだ人物を採用したい。

問二 つぎの中から言葉の用法に誤りを含んだ文を二つ選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 率爾ながら少々お尋ね致します。

イ 彼はおっとり刀でゆっくりと説明し始めた。

ウ 彼は会社の再建に腐心した。

エ 日本の債務超過は、まさに累卵の危うさだ。

オ またぞろ彼の悪い癖が出始めた。

カ 名誉ある賞を頂き、汗顔の至りである。

問三 つぎの各作家の作品名をそれぞれ一つ選び、解答欄の記号をマークせよ。

1 田山花袋

ア 金色夜叉　イ 仮面の告白　ウ 恩讐の彼方に　エ 高野聖　オ 蒲団

2 志賀直哉

ア 山椒大夫　イ 多情多恨　ウ 或阿呆の一生　エ 真珠夫人　オ 暗夜行路

〔二〕 つぎの文章を読んで、後の問いに答えよ。

一般的に家族は、「ありのままの自分」を受け入れ、認めてくれるような安らぎの場所が理想とされている。ただ存在するだけで無条件によろこばれ、本音を出し合える関係性。そこでは「偽りの自分」を作る必要性はまったくない。それが大多数の人間に共有された理想的な家族のイメージであろう。

しかし現在、多くの人が家族に対して本音を隠し、「ありのままの自分」を過度に抑制し、家族の求める役割を演じ続けている。そうしなければ、家族というシステムを維持することができず、相互に承認しあっている微妙な関係が壊れ、自らの居場所を失ってしまうからだ。しかもこうした不安から家族の承認が維持されている限り、そこには特に「認められている」というよろこびは生じない。

実のところ、このような偽りに満ちたコミュニケーションは、現代社会では家族以外の人間関係においても頻繁におこなわれている。

たとえば、仲間の承認を得るために自分の本音(ありのままの自分)を抑え、仲間の言動に同調した態度をとり続ける若者は少なくない。仲間の間で成立するコミュニケーションにおいて、リーダー格の人間の気分次第で変化する暗黙のルールを敏感に察知し、場の空気を読み取りつつ、絶えず仲間が自分に求めている言動を外さないように気を遣っている。

このようなコミュニケーションは「仲間であることを確認(承認)しあうゲーム」とも言い得るが、しかしその証は明確な役割や目的によるものではなく、空虚なものでしかない。価値のある行為によって認められるわけでも、愛情や共感によって認め合うわけでもない。それは場の空気に左右される中身のない承認であり、以下、このような承認をめぐるコミュニケーションのことを、「空虚な承認ゲーム」と呼ぶことにしよう。

家族や仲間関係において、相手の愛や信頼に疑いを抱くとき、自分は受け入れられているのかどうか、認められているのかどうか、強い不安に襲われるようになる。そのため、自分の考えや感情を過度に抑制し、本当の自分を偽って家族や仲間に同

調し、無理やりに承認を維持しようとする。それはただちに「空虚な承認ゲーム」となり、必ず自己不全感がつきまとう。そして少しでもコミュニケーションに齟齬が生じ、その関係が行き詰まれば、自己否定的感情に襲われ、絶望的な気持ちになるのである。

1 「空虚な承認ゲーム」が最も目立ったかたちで見られるのは、思春期における学校の仲間関係であろう。かつてこの関係は、親に認められなくとも、「ありのままの自分」を受け入れてくれる安息の場所であった。価値観を共有できる仲間たちと相互に承認しあうこと、それは親の承認という呪縛から逃れる上で、とても大きな意味を持っていた。しかし、いまや思春期における多くの仲間関係は、本音をさらけ出せる場所ではなく、「ありのままの自分」を抑制せざるを得ない閉塞感が漂っている。

そもそも思春期の生活のほとんどは家庭と学校の往復であり、交友関係も同級生やサークルの仲間に限られている。このような小さな人間関係のなかで、彼らは生活の大半を過ごす場所を守るために、仲間と接している間は絶えず場の空気を読み、仲間の気に障りそうな言動は極力避けている。相手の反応を少しでも読み間違えれば、仲間との関係は容易に破綻し、仲間はずれになり、「友だち」という立場を失ってしまうからだ。そのため、仲間との間に感じ方や考え方のズレが生じても、本音を表には出せなくなっている。

少数の仲間とうまくいかなくなっても、他の友だちを見つければよい、別の仲間に入ればよい、そう思うかもしれない。しかし、社会学者の土井隆義によれば、現在の学校におけるクラス内での仲間集団には一定の階層(身分制度)があり、誰もが自分の属するグループの仲間以外は、友だちの対象とは見ていない。これは一般に「スクール・カースト」と呼ばれている。

この問題について、臨床心理士の岩宮恵子は次のような興味深い事例を報告している。

カウンセリングを受けに来たある中学二年の女子Hは、クラスのなかで一番上のグループとされる、おしゃれで洋服や髪型に気を遣う派手なグループに属していたが、仲間はずれにされたことをきっかけに、教室に入りにくくなり、保健室で過ごすようになった。他のグループにはHを受け入れようとする生徒たちもいるのだが、彼女たちは位の低い地味なグループであるため、Hは絶対にいやだと言う。2 その子たちが話しかけてきても、「話しかけんな!」と拒絶してしまうほどだ。一方、自分を

排除した仲間たちに対しては、ご機嫌をうかがうような、卑屈な態度を続けており、無視されたり、冷たくあしらわれても、元のグループに戻りたいと切望している。

岩宮恵子によれば、これはHに限らず、多くの思春期の女の子に共通する傾向であり、「彼女たちは、自分が属しているグループの数人の人たちには、信じられないくらいの労力を使って関係を維持することに［　A　］としているのに、自分が重要と思わない人に対しては、ほんとうに無神経な言葉で傷つけることがある」(『フツーの子の思春期』)。

おそらくHの苦悩の根幹には、自己の存在価値が下落することへの恐怖がある。孤独だけが問題なら、別のグループの人間に優しくされれば、その苦しみはかなり癒されるはずだが、彼女にはまったくその様子が見られない。むしろ、身分が低いグループと付き合えば自分の存在価値が落ちる、それだけは避けたい、という激しい抵抗感がある。そのためどんなに苦しくても、自分の属する仲間との間で「空虚な承認ゲーム」を繰り返してしまうのだ。【　a　】

中学生ぐらいの年齢ではまだ交友関係も狭いため、家族や友人関係など、身近な人々の承認に固執してしまうのも無理はないし、それは昔もいまもさほど変わらないだろう。しかし、スクール・カーストのような現象には、身近な人々のなかにさえ線引きをし、あえて交友関係を広げまいとする心理が垣間見える。線引きをした外側の人間は、たとえ同じクラスにいても「見知らぬ他者」と同じであり、自分を認めてほしい相手ではないのである。【　b　】

ここ数年、進学や就職の際に都会へ出て、新しい世界や人間に出会いたい、というような、かつて多く見られた若者が減少しつつあるのも、こうした心理を反映している。マーケティング・アナリストの三浦展(あつし)によれば、生まれ育った地域(地元)を離れず、地元で進学や就職をし、大人になっても小学校や中学校の頃からの仲間と付き合い続ける、そういう地元志向の若者が増えているという(『ニッポン若者論』)。なにしろ都会に行かなくとも、華やかな消費生活を享受できるし、携帯によって、古くからの仲間ともつながり続けることができるのだ。【　c　】

だがこれは、身近な人間関係だけを重視し、見知らぬ人々との出会いにはあまり期待もしていない、ということでもある。社会学者の宮台真司が、「仲間以外はみな風景」(『まぼろしの郊外』)と表現しているように、仲間以外の人間には関心がなく、

見知らぬ人間はいてもいなくてもどうでもいい、と感じているのである。【　d　】

家族や仲間の承認のみを求め、それ以外の人々の承認を求めないのは、多くの人間の賞賛を求める野心とは無縁な、ある意味で堅実な生き方のように思えるかもしれない。理解してくれる人が少しでもいればそれでいい、という思いも十分に理解できる。しかし、見知らぬ大勢の人々の承認など不要だとしても、自らの行為に価値があるのかないのか、正しいのか間違っているのかについて、身近な人間から承認されるか否かのみで判断し、それ以外の人々の判断を考慮しないとしたら、それはとても危険な考え方である。【　e　】

たとえば、自分の会社の内部で不祥事が起き、大勢の人々に知らせなければ危険がある場合でも、社内で上司や同僚からの承認を維持するために、会社の隠蔽工作に荷担してしまうかもしれない。あるいは、あまり素行のよくないグループに関わり、仲間の承認を得るために万引きをしてしまう人もいる。この場合、もし見知らぬ大勢の人々の考えや承認を考慮するなら、そのような行為に及ぶことはできないはずだ。

このように、見知らぬ他者の承認を無視することは、たとえ身近な他者の承認だけで十分だという謙虚な気持ちに発するとしても、結果的に見知らぬ他者を排除することになりかねない。

また、積極的にこうした排除に荷担することで、自分の存在価値をより一層高めようとする場合もある。仲間と一緒に他の人々の欠点をあげつらい、蔑視することで、自分たちだけは特別だ、というような一段高い位置に身を置くことができるからだ。先に例を挙げた女子中学生Hの地味なグループへの蔑視も、こうした心理から生じている。それは、自分とは無関係に思える人々を蔑(さげす)むことで、自らの存在価値の底上げを図ろうとする行為にほかならない。

求められているのは「自分は価値のある人間だ」という証であり、その確証を得て安心したいがために、身近な人々の承認を絶えず気にかけ、身近でない人々の価値を貶(おとし)めようとする。見知らぬ他者を排除することで、自らの存在価値を保持しようとする。たとえそれが悪いことだと薄々気づいていても、仲間から自分が排除されることへの不安があるため、それは容易にはやめられない。そして底なしの「空虚な承認ゲーム」にはまってしまうのだ。[3]

（山竹伸二『「認められたい」の正体』より。文章を一部改変した）

問一　傍線部1「「空虚な承認ゲーム」が最も目立ったかたちで見られるのは、思春期における学校の仲間関係であろう」とあるが、それはなぜか。その理由として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア　そもそも学校とは様々な感じ方や考え方を持った思春期の若者が集まる場であるため、たとえ同じグループの仲間であっても考え方にズレが生じるのは当然だから。

イ　学校という場では、先輩・後輩といった上下関係が非常に重視されるので、スクール・カーストのような上下関係も発生・定着しやすい前提が整っているから。

ウ　「ありのままの自分」を受け入れて欲しいと願う思春期の同世代が集まることで、同じ種類の不安や悩みを共有できる仲間が見つかりやすい環境が生まれるから。

エ　見知らぬ他人などどうでもいいと考える人も少なくない現代社会においては、思春期の若者にとって自己の存在価値を認めてくれるのは学校で知り合った仲間しかいないから。

オ　多くの時間を学校で過ごす思春期の若者は、社会との接点が少ない上、自己の存在価値を認め合う交友関係も必然的に学校の仲間に限定されてしまうから。

問二　傍線部2「その子たちが話しかけてきても、「話しかけんな！」と拒絶してしまう」とあるが、この女子生徒Hはなぜこうも強く拒絶するのか。その理由として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア　「偽りの自分」を演じることで、自らの存在価値が下落してしまうという恐怖心を覆い隠したいから。

イ　他者を蔑んだり、排除したりすることで、相対的に自己の存在価値を高く保ちたいという心理が働くから。

ウ　自分が仲間として認めない者は、どうでもいい存在でしかなく、無価値なものとしか思っていないから。

エ　スクール・カーストでは、下から上の階層へ話しかけること自体が暗黙のうちにタブー視されているから。

オ　たとえクラスメートでも、関心のない者はみな風景と同じであり、対等な友人とは見なさないから。

問三　空欄 A に当てはまる語として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア　悄然　　イ　粛々　　ウ　敢然　　エ　汲々　　オ　憮然

問四　傍線部3「底なしの「空虚な承認ゲーム」にはまってしまう」とあるが、なぜ底なしで空虚になるのか。その理由を、本文全体の内容を踏まえ、つぎの形式に従って、三十五字以上、四十五字以内で記せ。ただし、読点や記号も一字と数える。

[　　]から。

問五　つぎの中から本文の内容に合致するものを二つ選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア　大勢の人々から承認されることを内心では望みつつも、それを最初から諦め、身近な仲間からの承認だけで妥協している現代の若者は、非常に危険な状態にあると言わざるを得ない。

イ　本当の自分を受け入れてくれる仲間の存在は、思春期の若者にとっては得難いものであるため、一旦その仲間を手に入れてしまうと、今度はそれを逃すまいと必死になり、「偽りの自分」を演じてしまうことすら厭わなくなる。

ウ　リーダーの意向や場の空気を読むことに絶えず神経を使い、「偽りの自分」を演じてまで承認を得たとしても、常に自己不全感がつきまとうため、積極的に交友関係を広げようとしない若者が近年目立ってきている。

エ　仲間からの承認を得ようと若者が躍起になる原因は、「自分は価値ある人間だ」という証が欲しいからであり、そのために自分を偽ることは厭わないが、自分を承認してくれる別の仲間を探そうという発想は見られない。

オ　「ありのままの自分」を受け入れてくれる友人や仲間が見つからないというのは、今日の学校という場にはありがちな問題であるが、現代社会では家族においてもそのような問題が発生している。

カ　自分を理解してくれる人が少しでもいればそれでいいという謙虚な姿勢をとりがちな現代の若者は、その謙虚さゆえ自己主張ができず、それが常にリーダーの言いなりになるスクール・カーストのような問題を生み出す原因にもなる。

問六　次の文章は、本文中のある段落に続くものである。どの段落の後に入れるのが最も適切か。本文中の【　a　】～【　e　】より選び、解答欄の記号をマークせよ。

これは思春期独自の問題というより、若い世代を中心に広く見られる傾向でもある。多くの人は思春期を終えて大学生や社会人になっても、身近な人々の直接的な承認にこだわる点では変わりなく、承認の対象を見知らぬ他者へ広げようという姿勢があまり見られない。

〔三〕 つぎの文章は、宮中に仕える楽人の兄弟が、夜神楽の場で余興として滑稽芸を演じた時の様子を記したものである。これを読んで、後の問いに答えよ。

*堀川院の御時、内侍所(ないしどころ)*の御神楽の夜、仰せにて、「今夜めづらしからん事つかうまつれ」と仰せありければ、職事(しきじ)*、家綱を召して、此よし仰せけり。X承りて、「何事をかせまし」と案じて、弟行綱をかたすみに招き寄せて、「かかる事、仰せ下されたれば、わが案じたる事のあるは、いかがあるべき」といひければ、「いかやうなる事をせさせ給はんずるぞ」といふに、家綱がいふやう、「庭火、しろく焚きたるに、袴を高く引き上げて、細脛(ほそはぎ)*を出して、①よりによりに夜の更け、さりにさりに寒きに、ふりちうふぐりを、*ありちうあぶらん、といひて、庭火を三めぐりばかり、走りめぐらんと思ふ。いかがあるべき」といふに、行綱がいはく、「さも侍りなん。ただし、おほやけの御前にて、細脛かき出して、ふぐりあぶらんなど候はんは、i便なくや候ふべからん」といひければ、家綱、「まことに、さいはれたり。さらば、異事をこそせめ。②かしこう申し合はせてけり」といひける。

殿上人など、仰せを承りたれば、今夜、いかなる事をせんずらんと、ii目をすまして待つに、人長(にんぢやう)*、「家綱召す」と召せば、家綱出でて、させる事なきやうにて入りぬれば、上よりも、その事となきやうに思し召す程に、人長また進みて、「行綱召す」と召す時、行綱、誠に寒げなる気色をして、膝をももまでかき上げて、細脛を出してわななき、寒げなる声にて、「よりによりに夜の更けて、さりにさりに寒きに、ふりちうふぐりを、ありちうあぶらん」といひて、庭火を十まはりばかり、走りまはりたりけるに、上より下ざまにいたるまで、大方どよみたりけり。

家綱、かたすみにかくれて、「きやつに悲しう、はかられぬるこそ」とて、中たがひて、目も見合はせずして過ぐる程に、[a]思ひけるは、「はかられたるは憎けれど、さてのみやむべきにあらず」と思ひて、[b]にいふやう、「この事、さのみぞある。さりとて、兄弟の中たがひ果つべきにあらず」といひければ、[c]、喜びて、行き睦びけり。

賀茂の臨時祭の帰立(かへりだち)*に、御神楽のあるに、行綱、家綱にいふやう、「人長召したてん時、竹台のもとに寄りて、そそめかん

ずるに、あれはなんする物ぞ、と囃し給へ。その時、竹豹ぞ、竹豹ぞ、といひて、豹のまねを尽くさん」といひければ、家綱、「ことにもあらず。てのきは囃さん」と事うけしつ。

さて、人長、立ち進みて、「行綱召す」といふ時に、行綱、やをら立ちて、竹の台のもとに寄りて、這ひありきて、「あれはなにするぞや」といはば、それにつきて、「竹豹ぞ」といはんと待つ程に、家綱、「かれはなんぞの竹豹ぞ」と問ひければ、詮にいはんと思ふ竹豹を先にいはれにければ、いふべき事なくて、③ふと逃げて、走り入りにけり。

（『宇治拾遺物語』より）

【注】
＊堀川院　白河天皇の二男。応徳三年（一〇八六）即位、嘉承二年（一一〇七）没。
＊内侍所　宮中の神鏡を安置する場所。長保四年（一〇〇二）より、恒例の宮廷行事として、この場所で毎年十二月に御神楽が行われた。
＊職事　蔵人頭。
＊細脛　やせ細った脛。
＊ふぐり　陰嚢。
＊人長　楽人の長。
＊帰立　祭の後、宮中に帰ってきた楽人らが神楽を奏すること。
＊てのきは囃さん　「全力で囃し立てよう」の意。

問一　波線部X「承りて」、Y「尽くさん」の動作の主体は誰か。最も適切なものをつぎの中からそれぞれ選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア　堀川院　　イ　職事　　ウ　家綱　　エ　行綱　　オ　殿上人　　カ　人長

問二　傍線部①「よりによりに夜の更け、さりにさりに寒きに、ふりちうふぐりを、ありちうあぶらん」の表現の特徴に関する説明として、当てはまらないものをつぎの中から一つ選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア　同音の繰り返し表現が小気味よいリズム感を生んでいる。

イ　猥雑な語の使用により滑稽味がかもし出されている。

ウ　「夜」「寒き」などの語とそれを導く語に頭韻が踏まれている。

エ　焚火を囲んでの夜神楽という場を踏まえた表現がなされている。

オ　掛詞や本歌取りの手法が効果的に用いられている。

問三　二重傍線部i「便なくや候ふべからん」、ii「せんずらん」の文法的説明として最も適切なものをつぎの中からそれぞれ選び、解答欄の記号をマークせよ。

i　「便なくや候ふべからん」

ア　形容詞「便なし」の連用形＋間投助詞「や」＋補助動詞「候ふ」の連体形＋助動詞「べし」の未然形＋助動詞「む」の終止形

イ　形容詞「便なし」の連用形＋係助詞「や」＋補助動詞「候ふ」の終止形＋助動詞「べし」の未然形＋助動詞「む」の終止形

ウ　形容詞「便なし」の連用形＋係助詞「や」＋補助動詞「候ふ」の終止形＋助動詞「べし」の未然形＋助動詞「む」の連体形

エ　形容詞「便なし」の未然形＋係助詞「や」＋補助動詞「候ふ」の連体形＋助動詞「べし」の連用形＋助動詞「む」の連体形

オ　形容詞「便なし」の未然形＋係助詞「や」＋補助動詞「候ふ」の終止形＋助動詞「べし」の連用形＋助動詞「む」の終止形

ii　「せんずらん」

ア　動詞「す」の未然形＋助動詞「むず」の終止形＋助動詞「り」の未然形＋助動詞「む」の終止形

イ　動詞「す」の未然形＋助動詞「むず」の終止形＋助動詞「らむ」の終止形

ウ　動詞「す」の未然形＋助動詞「む」の終止形＋助動詞「ず」の終止形＋助動詞「らむ」の終止形

エ　動詞「す」の未然形＋助動詞「む」の終止形＋助動詞「ず」の終止形＋助動詞「り」の未然形＋助動詞「む」の終止形

オ　動詞「せんず」の終止形＋助動詞「らむ」の終止形

問四　傍線部②「かしこう申し合はせてけり」の解釈として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア　つい相談してしまった。
イ　しっかりと仕組んでおくべきだった。
ウ　巧妙に仕組んでおいたことだ。
エ　相談しておいてよかった。
オ　あらかじめ相談すればよかった。

問五　空欄 a ～ c に入る名詞として最も適切なものをつぎの中からそれぞれ選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア　堀川院　　イ　職事　　ウ　家綱　　エ　行綱　　オ　殿上人　　カ　人長

問六　傍線部③「ふと逃げて、走り入りにけり」とあるが、それはなぜか。「家綱」「行綱」「竹豹」の語を用い、つぎの形式に従って、三十字以上、三十五字以内で説明せよ。ただし、読点や記号も一字と数える。

[　　]から。

問七　『宇治拾遺物語』は鎌倉初期頃成立の説話集であるが、次の中から説話集ではないものを一つ選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア　今昔物語集　　イ　宝物集　　ウ　無名抄　　エ　撰集抄　　オ　古今著聞集

つぎの問題〔四〕は、文学部を志望する受験者のみ解答せよ。

〔四〕 戦国時代、秦の武王の時の宰相だった甘茂は、つぎの昭王の時、讒言に遭って出奔した。つぎの文章はその時の話である。これを読んで、後の問いに答えよ（設問の都合上、返り点・送り仮名を省いた箇所がある）。

甘茂亡レ秦、①且之斉、出レ関ヲ*遇フ*蘇子ニ。曰、君聞ケルカトニ夫江*上之処女ヲ乎。蘇子曰、不レ聞カト。曰、夫江上之処女ニ有リ家貧シクシテ而無キレ燭者。処女相与ニ語リテ欲スレ去ラシメント之ヲ。家貧シキ無キレ燭者将ニ去ラントテ矣、謂ヒテ処女ニ曰、妾ハ*以テガレ無キヲレ燭故ニ、常ニ先ニ至リテ、掃ヒレ室ヲ布クレ席ヲ。何ゾ愛ムヤ*於余明之照ラスニ四壁ヲ者ヲ。幸ヒニ以テ賜フトモレ妾ニ、②何妨於処女。妾自ラ以テ為スレ有リレ益ニ於処女ニ。何為レソ去ルサトレ我ヲ。処女相語リテ以テ為シテレ然リト、而③留之。今臣不肖ニシテ、④棄ニ逐於秦ニ而出ヅレ関ヲ。願ハクハ為ニ足下ノ

A

。幸ヒニ無カレトニ我ヲ逐フコトニ也。蘇子曰、善シ。⑤請重公於斉。

（『戦国策』より）

【注】
＊関　函谷関（河南省北西部にある関門）。秦が東の防衛のために設けた。
＊蘇子　蘇代。「子」は敬称。合従策を唱えた蘇秦の弟で、同じく遊説家。当時は斉に仕えていた。
＊江上之処女　揚子江のほとりに住む娘たちの意。毎夜、集まって麻を紡いでいた。
＊妾　女性の謙譲の自称。
＊愛　「惜」に同じ。

問一　傍線部①「且之斉」をひらがなのみの書き下し文にして、解答欄に記せ。

問二　傍線部②「何妨於処女」とあるが、その解釈として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。
ア　なぜそれがあなた方の邪魔になるのでしょうか。
イ　あなた方はどうして私を迷惑に思うのですか。
ウ　なんと私をこんなひどいめにあわせるのですね。
エ　どうしてあなた方は私の足を引っ張るのでしょうか。
オ　なぜそれがあなた方を守ることになるのでしょうか。

問三　傍線部③「留之」とあるが、その理由として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。
ア　貧しい娘が必死に訴えるので、ほかの娘たちは可哀想に思ったから。
イ　貧しい娘が強く非難したので、ほかの娘たちは反省したから。
ウ　貧しい娘の地道な努力に、ほかの娘たちは自らを恥ずかしく思ったから。
エ　貧しい娘の迫力に圧倒されて、ほかの娘たちは怖くなったから。
オ　貧しい娘が情理を尽して説いたので、ほかの娘たちは納得したから。

問四　傍線部④「棄逐於秦」の「於」と同じ意味の「於」を含む文をつぎの中から一つ選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア　不義而富且貴、於レ我如ニ浮雲一。

イ　及レ陥ニ於罪一、然後従而刑レ之。

ウ　曹操比ニ於袁紹一、則名微而衆寡。

エ　労レ心者治レ人、労レ力者治ニ於人一。

オ　停レ車坐愛楓林晩、霜葉紅ニ於二月花一。

問五　空欄 A 　には、甘茂の述べた例話の寓意を最もよく表す語句が入る。文中からそれを抜き出して、解答欄に記せ。ただし、返り点、送り仮名は省くこと。

問六　傍線部⑤「請重公於斉」とはどういうことか。最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア　斉に出仕するよう、甘茂に繰り返し頼んだということ。

イ　甘茂が斉で重んじられるように助力したいと述べたということ。

ウ　斉で仕えるのは、甘茂にとっては任が重いと説いたということ。

エ　甘茂が斉で重用されるために、忠勤を励むよう教え諭したということ。

オ　甘茂に斉では軽率に振る舞うことのないように願ったということ。

つぎの問題〔五〕は、経営学部・人間環境学部・GIS（グローバル教養学部）を志望する受験者のみ解答せよ。

〔五〕 つぎの文章を読んで、後の問いに答えよ。

宗教学者のミルチャ・エリアーデは、何時の時代でも死後の生は宗教上の重要な問題であり続けたが、「心霊学」という死後に生が存在することの証拠に関する技術及び思想が生まれたのは、精々一八五〇年頃になってからだと指摘している。言われてみれば当然のような話であるが、私は、なるほどと思った。重要なのは、その証拠が飽くまで物的なもの（動くテーブル、物音、「物化」された対象、写真に撮ることの出来る幽霊、等）でなければならなかったという点である。心霊学は、実験科学の基準を導入して霊魂の不滅を物理的顕現によって証明しようとする。そうした試みは、触知可能な証拠という固定観念の産物であり、それは、一九世紀後半の唯物論的イデオロギー*と完全に同時代的であるというのが彼の主張である。

1 この一五〇年前のヨーロッパの分析は、何と今日的であろうか。キリスト教が絶対的な真実としてヨーロッパ社会に君臨していた間は、霊魂の存在など、そもそも証明する必要のない事実であった。必要があったとしても、その物理的証拠などというものは無価値に等しかったし、第一、そんなことは思いつきもされなかったであろう。霊魂というものは、何よりも肉（即ち物質性）の対立概念である。［ A ］であるということ自体が、すでに霊魂の概念を逸脱している。『カラマーゾフの兄弟』の中で、イヴァンは、「あの世と物的証拠、なんたる取り合せだろう！」と叫んでいる。では何故その証拠が必要とされるようになったのか。それは言うまでもなく、キリスト教の、というよりも寧ろ宗教そのものの凋落があったからである。ニーチェが神の死を宣告したのは、二〇世紀を目前にしてのことであったが、この宣告は、百年ほども前から既に瀕死の状態であった神に、最終的に臨終の判断を下したという勇気に於いて偉大であったと言うべきである。一九世紀を通じて、神はずっと植物状態にあった。ニーチェの業績は、良くも悪くもそのチューブを外したということである。臨終の床に居合わせた者達は、或いは以前からそれに気づいていた者達は、その空隙に悩まねばならなかった。絶対者は消えた。しかし、不安は残った。寧

ろ一層強くなりさえした。その空隙を満たしてくれるものこそが、科学であった。科学は、凡そ信仰の対象となったと言っても過言ではない。自然の神秘について、人間の不思議について、説明してくれるのは最早神学ではなかった。科学であった。

こうした科学に対する信仰は、今日では廃れるどころか、殆ど決定的にさえなった感がある。人々は、科学的に証明された事実をこそ信じる。科学的に証明されない事実は、信じたくとも信じられない。*イエイツの生きた時代から半世紀以上も経った今日に於いても猶、心霊写真がどれほど多くの人の興味を惹きつけることか。写真というものの物理的な仕組みからして、それが霊的存在を証明してくれることなどあり得ない。この世ならぬ何ものかが、人の目には見えなくとも写真には写るという考え方は、まったく以て奇妙奇天烈な思い込みと言う外はない。私はまだしも、この目で、幽霊なり妖怪なりを見たという証言の方が、ずっと真実であると思う。[2]少なくとも、それが彼の人生に重要な意味を持つ限りに於いては。写真に写るという時点で、その、この世ならぬ何ものかは、結局この世の中の何ものかであったと証明されてしまうとは、どうして考えないのであろうか。或いは、実体は不可知、不可触であるとしても、一時的に物理的な仮象を纏って顕現することはあり得るという考え方であろうか。それならば、一応筋は通っている。こうした考え方は、霊魂の再受肉を認めないキリスト教社会よりも、輪廻のイメージが漠然と世俗化されて残っている我が国に於いての方が、受け容れられやすいかもしれない。が、何れにせよ、私が心霊写真を巡る現代人の反応の中に見出すものは、霊的な存在を科学的に証明したいという近代的な欲求とともに、死後の生があるとしても、それが何らかの形で物質性を帯びているか、或いは物質との接触可能性を有しているかでなければ、死の不安は決して慰められることはないという唯物論的イデオロギーの倒錯した姿である。

こうした問題は、昨今のカルト教団の教義及び活動に見られる奇妙な科学主義に於いてもはっきりと確認される。信者の多くは、この世ならぬ存在の神秘に憧れて教団に入信する。しかし、入信した彼らを納得させるのは、奇妙にも科学的な証明である。科学的に証明されるが故に(それが、どのような証明かは知らないが)、俄かには信じ難い怪しげな話も事実として受け止められる。[3]この不思議な現象は、心霊写真を巡る人々の心理構造と完全に一致する。似非科学が、今日ほど人を容易に騙し得る時代はない。

少し前に世間を騒がせた件(くだん)のミイラ事件*の際にも、私はこうした問題の現代性をはっきりと感じた。ミイラとなった屍体が生きていることを主張する彼らは、その証明のために、飽くまで医学的な論拠を主張する。つまり、科学的に生存を証明しようとするのである。

カルト教団が、そうした科学主義を奉ずる以上、社会はそれに対抗し、勝利する術(すべ)を持っている。科学的事実に於いて、真実は常に一つである。彼らが、屍体はまだ生きていると主張する時、それが医学的に説明される限りは、その誤りを指摘し、論破することは可能である。しかし、そうでない時には？　私は、いずれ問題となる日のために敢えて筆に上すが、或る教団が、科学的事実とはまったく別の次元で、つまりは、その教団独自の形而上学的事実に基づく［　B　］観を根拠として、医学的に見れば完全に死んでいる或る人間の死を否定する時、我々の社会はそれにどう対処するのであろうか。結局我々にしても、死とは一体何であるのかという困難な問題に対しては、医学的な、即ち科学的な合意以上のものは、何ら持ち合わせてはいない。いや、医学的見解に於いても、脳死を死と認めるべきかどうかと、必ずしも統一された見解の存するわけではない。何とも心許ない話である。

（平野啓一郎『文明の憂鬱』より。文章を一部改変した）

【注】
*唯物論　精神の実在を否定して物質だけが真の存在であるとし、その根源性・独自性を主張する哲学の理論。
*イェイツ　ウイリアム・バトラー・イェイツ（一八六五―一九三九）。アイルランドの詩人・劇作家。神秘的・幻想的な作品を多く残し、オカルティズムにも関心を示した。
*ミイラ事件　一九九九年、ライフスペースを名乗る団体がミイラ化した遺体を回復期にある病人として隠匿し、主宰者らが起訴され、有罪判決を受けた事件。

問一　傍線部1「この一五〇年前のヨーロッパの分析は、何と今日的であろうか」とあるが、筆者がそう考えるのはなぜか。最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア　心霊学は一九世紀後半の唯物論的イデオロギーに基づき、ニーチェに先だって神の実在を否定したから。
イ　心霊学の理論は霊の物理的顕現を重視し、現代における心霊写真のもつ重要な意味を予見していたから。
ウ　心霊学が実験科学の考え方を導入したことは、現代人の陥りがちな科学への盲信に通じるものがあるから。
エ　心霊学は物理学を基礎として、死後にも生が存在するという当時の固定観念を打破することができたから。
オ　心霊学の科学的な技術は現代のカルト教団によって継承され、その教義の正当性の根拠となっているから。

問二　空欄 A に入る最も適切な語句をつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア　死後の生　　イ　実験科学　　ウ　触知可能
エ　唯物論的イデオロギー　　オ　証明する必要のない事実

問三　傍線部2「少なくとも、それが彼の人生に重要な意味を持つ限りに於いては」とあるが、筆者がこのように表現した意図を説明したものとして最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア　幽霊や妖怪を見ることができる特殊な能力は、その人の人生を変えるほどの力を持つということを強調するため。
イ　幽霊や妖怪を見たと証言することは人騒がせな妄言にしか過ぎないということを、皮肉をこめて表現するため。
ウ　幽霊や妖怪の実在は信じないが、それを見たという人を頭から否定するのは不寛容であるということを示すため。
エ　幽霊や妖怪を見るという経験は、主観的な経験としては真実であると言ってもよいという考えを表現するため。
オ　幽霊や妖怪の実在を否定しているのではなく、写真に霊が写るという非科学性を否定していることを強調するため。

問四　傍線部3「この不思議な現象は、心霊写真を巡る人々の心理構造と完全に一致する」とあるが、両者に共通する心理構造とはどのようなものだと筆者は考えているか。つぎの形式に従って、二十五字以上、三十字以内で解答欄に記せ。ただし、読点や記号も一字と数える。

［　　］心理構造

問五　空欄 B に入る最も適切な語を解答欄に記せ。ただし、その語はたがいに反対の意味を持つ二字の漢字からなる。

問六　つぎの中から、本文の内容と合致しているものを一つ選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア　エリアーデは、心霊学が唯物論的イデオロギーと同時代的であることを理由にその思想の正当性を主張した。

イ　ニーチェは、近代の人間は科学をこそ信仰の対象にすべきであるという考えに基づいて、神の死を宣告した。

ウ　現代人は霊的な存在を科学によって表層的に否定しつつ、深層心理では死後の世界の実在を証明したいと思っている。

エ　霊魂の実体は証明できなくてもそれが物理的な形で一時的に現れると考えることは、科学的に正しいと一応言える。

オ　現代社会がカルト教団の奇妙な科学主義に対抗する方策は、医学的・科学的な事実を示すことだけである。

問七　この文章の題名として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア　疑似科学的カルト教団の末路　　イ　心霊写真の構造心理学　　ウ　科学信仰時代の人間の死

エ　唯物論的イデオロギーと神の死　　オ　似非科学に騙されない方法